社　会

子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習

― 思考力・判断力・表現力を育てる学び合いのあり方 ―

1　社会科で願う豊かな学びの姿

お店について勉強する前は，お店の役割はお客さんにただ売るだけだったり，ただお客さんのことを思っているだけだったりと思っていました。……「お客さんのためだけ」というのはまちがいです。もっと広げて，「だれでも」という意味です。お店と人がかかわり合うことが大切だということがわかり，すっごく感動しました。安全・安心な品物を売るとお客さんに信らいされ，お店にお客さんが来る，すると，もうけることができて，仕入れがうまくできたり，サービスができたりして，またお客さんが来るのでつぶれなくなる。すると，また安心・安全な品物となって…とかかわり合う意味で，ぐるぐる回っていて，リサイクルみたいです。わからなかったことが次々わかって，すごくよかったです。　（小学３年　児童A）

上の文章は，児童Aが小学３年「お客さんが大切にするお店を考えよう」の学習後のふりかえりとして書いたものである。小学３年の児童Aは，見学・調査，話し合いと，学習をすすめていくなかで，それまで断片的に捉えていた身の回りの事象が，「お店」を中心につながってきて，それを「ぐるぐるまわっていてリサイクルみたい」ととらえている。授業の最後には，さまざまな事象を関連づけ，経営的視点をもちながらお店の存在の社会的意義について考える力が育っていることがみてとれる。観察やインタビューといった直接体験からの気づきを大切にし，調べ学習や話し合い活動を通して問題解決を図るなかで，わからなかったことがわかるようになり，その喜びが次の学びの意欲へとつながっている。そして，身の回りのできごとから，地理的・歴史的事象へ，具体から抽象へと対象物と獲得概念の幅を広げながら子どもの学びがつながっていくことが大切だと考える。

以下のふりかえりは，生徒Bが，中学３年公民「憲法改正は必要か～現代社会における人権のひろがりと憲法について考えよう～」の学習後に書いたものである。

憲法によって今の私たちの生活が成り立っていることがわかりました。しかし，戦後すぐにつくったこの憲法と現在おこる問題の間にずれが生まれていることもわかりました。昔は想像もしなかったような権利が次々と登場していて，多分これからも増え続けると思います。私たちが大人になったとき，憲法を改正するかの国民投票が行われるかもしれません。そういう時のためにも，自分のこの問題に対する考えをきちんともっていたいです。国民の要求もどんどん広がっているので，私は，きちんと憲法に書くべきだと思います。そして，書くとなれば誰が考えるのか，どういう内容にするかなど，書くことでどう社会が変わるのか，考えることはいっぱいあります。だからこの問題について私自身これからも考えていきたいです。
（中学３年　生徒B）

中学３年の生徒Bは，「人権が広がりをみせることから生じている問題」といった社会が内包する問題に気づき，学習を進めるなかで，他者の多様な意見を聞くことで，簡単に解決できる問題でないことを踏まえた上で，この問題を解決していくために自分がすべきことを述べている。そこからは，法令遵守や人権尊重といった，社会の構成員に必要な価値観のみならず，よりよい社会につくりかえていこうとする社会参画の姿勢がうかがえる。

中学３年の生徒Bにみられる，よりよい社会の実現に向けて主体的に社会とかかわり，課題を解決していこうとする社会参画の姿勢は，教えられて身につくものではない。①一つの課題に対して納得いくまで追求する学習経験，②自分たちの周りにある課題を話し合いなどにより解決を図る学習経験，③他者の意見を聞くことで，新しい見方・考え方で社会をとらえなおす学習経験，といった学習を積み重ねることで身についていく。上記のふりかえりから，それぞれの発達段階に応じて，①～③に示す学習を継続することで，社会の主体者という意識が芽生え，社会参画の姿勢が培われていくのではないかと考える。

以上のような考えから本学校園社会科部（以下社会科部と略す）では，以下のようにめざす学びの姿をまとめている。

○積極的に追求を行うことを通して，知識を関連づけたり構造立てたりしながら社会的事象の意味や意義について，多面的・多角的に判断し深めていく姿。
○自分のくらしや生き方について社会的事象を通して考え，社会の主体者として社会に参画しようとする姿。

2　昨年までの研究の経緯

(1) 社会科における思考力・判断力・表現力

社会科部では，社会科における思考力・判断力・表現力を以下のように考え，３つの力は相互に深く関連しており，切り離せないものであると考えている。

○思考力 …… 社会的事象を多面的・多角的に考察する力，社会的事象の意味・意義を解釈する力，事象の特色や事象間の関連をつかむ力。加えて，これらの力で得た知識・概念などをまとめる力。
○判断力 …… 公正に判断する力，多様な社会的な見方や考え方ができる力。公正に判断する力は，事象を科学的に判断することだけでなく，未来に向けての子ども自身が生き方を判断する力を指している。つまり事実判断の上に立った価値判断ができるということである。
○表現力 …… 思考・判断したことを他者に伝える力。ここでの表現力とは，「自分の考えを論述する力」と考えている。社会的事象の中の問題に対して，根拠をもって自分なりの意見や考えを表現できる力の育成をめざしている。

また，思考力・判断力・表現力を11年間のつながりからまとめ，各ブロックごとに以下のように整理した。

○初等部前期 … 没頭して遊んだり体験したりしたことから，気づきや課題をもち，自分なりに考えたり工夫したりして，そこで得た思いや疑問点を素直に表現する力。
○初等部後期 … 身近な社会でおこる社会的な問題を発見し，問題を解決するために，ある観点をもって，見学・調査したりして，自分の考えをもち，友だちの意見などを比較し練り合って自分の意見を決め，それを相手にわかるように伝える力。
○中等部 …… 社会が内包する問題を発見し，社会的事象の特色や相互の関連をつかんだり，意味や意義を解釈することにより，他者の調べたことに対して意見を述べたり，考えを伝えることができたり，社会をよりよくつくりかえていく情報を発信する力。

これまでの研究で，子どもたちの習得した知識や概念がネットワーク化し，社会認識が深まるためには，教師が「中核となる視点」をどうとらえて単元を構成するかが重要であることを見つけてきた。そして，子どものなかで習得した知識・概念を「中核となる視点」につなげて考えることが，思考力・判断力・表現力を育成することにつながることを見つけてきた。そして，この思考力・判断力・表現力の育成には，①習得した知識・技能を「活用」する学習活動を，系統的・継続的に行うこと，②他者とのかかわり合いを大切にした学習活動を取り入れることが有効であることがわかってきた。特に②については，次の４つの学習場面を設定し，実践を行った。

a　具体的な活動や体験の中から，問題を発見したり必要な情報を収集したりする学習活動
b　他者とかかわり合いながら，発見した問題を整理し，共通の課題としてとらえる学習活動
c　自分とは違った見方・考え方をもつ他者とのかかわり合いによって，これまでの見方・考え方をゆさぶる学習活動
d　思考・判断したことを，根拠をもって自分の言葉で他者にわかりやすく伝えることにより，対話が成立する学習活動

実践後のふりかえりやイメージマップの検証から，思考力・判断力・表現力の育成に，他者とのかかわり合いを豊かにもつことが有効であることがわかった。また，社会科における思考力・判断力・表現力を11年間のつながりから整理していくことで，発達段階に応じて高めていかなければならない力や切り離しては考えられない要素が明らかになってきた。これらをふまえ，さらに思考力・判断力・表現力が高まるようなかかわり合いのあり方を模索していくことの必要性がみえてきた。

(2) 思考力・判断力・表現力を育てる学び合い

昨年度は，学級全体の学び合いを豊かなものにすることによって社会認識の育成に迫りたいと考え，かかわり合いを重視した４つの学習場面a・b・c・dのうち，c・dの学習活動をより重視した授業づくりを行った。ただ，学級全員の学び合いを豊かなものにすることを願うとき，学び合いの時間だけ

では達成できないことが多い。教材の選択およびその出会わせ方，学習のめあての設定，追求する上での学習方法といった，「学級全員の学び合いに至るまでの構想」と，「学級全員で行う学び合いにおける教師のはたらきかけ」の両方が重要と考え，この２つを工夫しながら有効な学び合いのあり方を探った。

①学級全員で行う学び合いに至るまでの構想

学級全員の学び合いに至るまでをよりよいものにするため，子どもの追求の流れを単元レベルで明確にすることが大切であると考え，具体的には以下の２点を大切に単元の構想を行った。

（ｉ）多様な学習課題を誘発するような教材の選択と興味関心が沸き立つような教材との出会いがあり，問題を発見・把握し，意欲をもって追求していくことができるような学習のめあてを設定する。
（ii）学習のめあての解決をめざして，自ら選択した学習方法で調べ，その結果獲得した自分の考えをまわりの人にわかりやすく伝えられるようにする。

前述の中学３年の実践では，新聞記事から学習に入り，「憲法改正は必要なのか」を単元を通した学習課題として取り組んだ。「憲法９条をめぐる議論」「広がる人権をめぐる問題」等，憲法改正をめぐる昨今の情勢は，子どもが興味をもちながら継続して追求できるものであり，クラスでも多様な意見が聞かれた。最終単元では，新しい人権を憲法に規定するシミュレーションを作成し，それを班でまとめ学級全体で出し合い議論を深めた。生徒Bのふりかえりからも，この実践が思考力・判断力・表現力の育成に有効であったことがわかる。ただ，学級内で社会認識の深まりに個人差があり，それが学級全体における学び合いの弱さにもつながっていた，という課題も見つかった。（ｉ）・（ii）は，学び合いに至るまでの過程として必要不可欠なものであり，魅力的な教材の開発や人間の生活にせまる切実な課題設定のあり方などを模索し続けるとともに，深い学び合いにするための単元構成をさらに工夫する必要性を感じた。

②学級全員で行う学び合いにおける教師のはたらきかけ

社会科部では，「掘り下げる」と「提案する」の２つのはたらきかけを大切にして授業を行った。

前述の小学３年の実践では，お店の見学後，「A店が大切にしているものは何か」を考えた。多くの子どもの見方・考え方は，１番買い物をしているお母さんのニーズにお店が応えるため，家族の健康や願いをかなえるお店の工夫に関心が向いていた。そこで，値段や仕入れといったお店がしている多くの工夫や努力がつながりあっていることに気づいてほしいと願い，大切にしているものを複数あげている子どもを指名して発表させ，他者の考え方を提案するはたらきかけを行った。それにより子どもは，「お客さんのニーズにこたえる」という上位概念で関連づけて考えられるようになった。ただ，お店が「利益を度外視してお客さんのために工夫・努力している」という理解でとどまらず，「従業員の生活を守ることにもつながる」ことに目を向けさせるために，「もうけなくてもお店は，稼いだお金で仕入れていけばよいのではないか」という問いを投げかけることで，子どもの思考を掘り下げ，深めることができた。そして，さらに効果的なはたらきかけをするために，教師が子どもの認識をより詳細にとらえる必要があることが見えてきた。

3　本年度の研究

(1) 思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくり

前述したように，思考力・判断力・表現力の育成において学び合いの有効性を実感したことはまちがいないが，課題がみられたのも事実である。その１つは，学び合い場面における思考の練り合いをさらに充実させていくことである。そのために，学び合いに至るまでの過程と，学び合いにおける教師のはたらきかけの両面から探り，その改善点を今年度の研究の中心に据えたいと考える。

①学び合いを深めるための単元構想　―第２の学び合いの設定―

社会科部で願う学び合いを通してめざすものは，子どもが積極的に自分の考えを表現し合うなかで，新しい見方・考え方を培いながら社会認識をさらに深めていく姿である。そのためには，子どもが自分の意見を形成していないと，学び合いは成立しない。「そう言われても私は○○と思う。なぜなら～」

と言えるぐらいの意見形成を個々が行っていてはじめて学級での学び合いが成立すると考える。この意見の形成が弱いと，学び合いにおける思考の練り合いが不十分となり，学級全体での学び合いが深まらない。意見形成ができ，学び合いが始まると，意見交流の中で子どもたちは，教師の提示する資料や友達の意見といった，新しい見方・考え方にふれ，自分の考えに揺れを感じたり，自分の考えの確かさに自信をもち，あらためて自分の考えを見つめ再構成しようとする。そこで，ここまでの過程を「第１の学び合い」とし，個にかえり自分の考えを再構成する場面を設け，意見形成を強固にした形で，もう一度学び合いの時間を設定することにした。ここでは，自分の意見が変わった理由や確かだと思った理由を述べることにより，新しい見方・考え方と自分の考えとのかかわりについてより深く考えて，練られたものを表現できると考える。このようにわたしたちは，「第２の学び合い」が成立するまでの構想を大切に考えて単元を構成していきたいと考えている。なお，ここで述べた考えは，今年度作成した単元・題材配列表の中でも大切にしていきたいと考えている。

②評価を生かした学び合いにおける教師のはたらきかけ

今年度も，昨年度と同様に「掘り下げる」と「提案する」の２つのはたらきかけを大切にしていきたい。ただし今年度は，後述する評価を生かし，子どもの学びの実態を詳細にとらえ，この「掘り下げる」と「提案する」のはたらきかけにも反映させることで，学び合いをより深めたいと考えている。

小単元における最終の「ふりかえり」や「イメージマップ」を用いて，評価規準と照らし合わせながら，個々の社会認識の変容を詳細にとらえ，個別に手立てを行うことで，学級での学び合いが充実したものとなると考える。また，鋭い視点で物事をとらえている子ども，別の角度から考えている子どもをとらえて，その思いや願いを中心に「掘り下げる」ことで，より論点が整理され，学び合いを深めることができると考える。また，子どもの思考が１つの考え方に固執しているとき，別の面で見なければならない事象や調べ方に出会わせるために「提案する」はたらきかけを行っていきたい。「提案する」はたらきかけを行う際に，別の面で見たり考えたりしている子どもがいた場合には，その考えや発言をとらえ，その子が言いたくなるような場面を授業のなかでつくっていきたい。そのことが思考の深まりとともに，自らが主体となって学びに加わる姿勢を培い，ひいては社会参画の力へとつながっていくものと考える。

⑵ 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

今年度は「思考力・判断力，表現力」の育成について，各小単元における最終の子どもの「ふりかえり」や「イメージマップ」を集積し，それを活用した評価を行い，子どもの思考の変容を教師がとらえるとともに，子ども自身が自分の学びをとらえられる手だてとしたい。単元を通しての「思考力・判断力・表現力」の評価規準は，昨年度整理した「思考力・判断力・表現力の11年間のつながり」と，「社会科部で願う豊かな学びの姿」を基盤に据えて，各学年と各単元に応じて設定する。単元を通して同一の評価規準を使う単元と，複数の評価規準を使用するのが適切な単元があるだろうが，それは各単元の内容や発達段階を考慮して決定していく。

そして「第１の学び合い」と「第２の学び合い」の前後では，同一の評価規準を用いて評価することで，社会認識の変容をとらえたいと考えている。とくに，「第１の学び合い」と「第２の学び合い」の間での「思考力・判断力・表現力」の深まりをしっかりとらえ，今年度の研究の検証もすすめていきたいと考えている。その際に，子どもの認識の変容をわかりやすく表すための方法については検討中であるが，より分かりやすいものを追求していきたいと考えている，

4　課題と成果

今回，「第２の学び合い」を意識して設定したことによる思考力・判断力・表現力の高まりは，評価からも見えてきているところである。前時までのふりかえりや，授業中の子どもの認識を可能な限り教師が把握し，それを「掘り下げる」と「提案する」といったはたらきかけに生かすことで，論点の整理につなげることができた。今後は，いかに効率的に評価を指導にタイムリーに生かすかが重要ではないかと考える。具体については，事例を参照していただきたい。　　（文責　前島　美佐江）